

すずき ひさし
鈴木 央さん

JICA 国内事業部大学連携課

シリア平和への架け橋・人材育成(JISR) プログラム

2022 年 9 月 18 日（日）中国新聞 SELECT 掲載

※中国新聞社の許諾を得ています



日本社会を見つめなおす

広島大で建築を学ぶサメル・ジディアさん（41）＝東広島市＝は、妻と3人の子どもと一緒に、国際協力機構（JICA）の留学生としてシリアから3年前に来日した。留学先を日本に決めた理由は、子どもの教育に最適と考えたからという。

ジディアさんの願いは、子どもたちがそれぞれ大学に入って自分の希望をかなえることだ。将来の夢を子どもたちに聞くと、次女で小学5年のララさん

からは「まだ分からない」と返ってきたが、長女で中学2年のマリアンさんは「絵の具が好きだからイラストレーターかな」、長男で中学3年のヤヒアさんは「プログラマーになって、ゲーム会社の社長になりたい」と教えてくれた。

一家は、日本社会に溶け込んでいるように見えるが、今も大変な思いをすることがあるそうだ。そのエピソードの一つが「うちの会社で働くなら、ここの土地の方言で日本語を話してもらわないと困る」と言われて戸惑ったこと。

ジディアさんは「日本人は優しいし、差別もないけど、日本人と同じようにしないと、なかなか受け入れてもらえない」と悩みを打ち明ける。そして、「私たちが100%日本人になることはできない。だから、日本人との違いを分かって自分たちを受け入れて欲しい」と願う。

外国人と話していると、彼らだからこそ気付いていることを教えてくれる。それを知ると、私たちが日本社会を見つめ直すきっかけにもなり得る。外国人との付き合いはハードルが高いかもしれないが、近所の外国人と友達になることから国際交流を始めてみることをお勧めしたい。



3年前に来日し、東広島市内で暮らすジディアさん（中央）と家族